
Sは素直じゃないのS

月遼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Sは素直じゃないのS

【著者名】

N2059D

月遼

【あらすじ】

Sな彼女って駄目ですか? SはSでも……違うS。 今日も彼女はS全開なのでした。

私の感情は全て、Sな事で表される。

「私と彼は今月、付き合つてから五ヶ月を向かえる恋人同士。
彼、久崎光駕クザキコウガと私、沢原唯月サワハラユイツキは同じ、バスケ部の部員で……やつぱり出会いは部活。

入部した当時は、お互い様…全く意識して無かつた。
でも、いつ頃からか私はあの笑顔に惹かれていた。
彼の気持ちがその頃、どうだつたかは知らないけど。

そして、その彼は今、私の隣で部室の片付け中。
そんなにモテる彼では無いけれど……いや、全然モテる事は確實
に無い。見た目が少し太り気味なのがモテない原因……。
ううん…、別に私は顔で人間は選んでないけど……。
彼の為にも……痩せた方が良いと思う現実…。

頑張れ 光駕。

一応、心の中でメールを送る私。

そして、ここから一見、らぶらぶな馬鹿ツプル?は、凄い事を仕出
すのでした。

「 光駕、言つても良いかなあ?」

少々、脅し口調で問い合わせる私に光駕は、部室の片付けを中断させ
てこちらを向く。

「瘦せる」

「……はい」

しょんぼりする光鶴。

私はこれをもつと虐めたくなる。「……別に、私は貴方で良いけどさ。でもね、私にだつて望みがあるの。しかも、大人になつてそんなんじや、子供に馬鹿にされるわよ」

誰も居ない部室の中。

二人だけの部室に私の声が響く。「……うう、仕方ないなあ……頑張つてみるけどさ……んじゃあ、そのかわり……」

部室の隅で私を押し倒す光鶴。

要はやりたいって訳?

「……あんたにしては、珍しい事。やつと、男っぽくなつた?」

私は冷静に言ってみる。

正直、私の方が彼より……エロいと思つけど。
外見的に彼はそういうのに全く、面識は無く。
「普通に毎日、やりたかつたけど?」

「あ、そう

ん?

待てよ?

思えば、五ヶ月付き合つてゐるのにキスもえつちもやつて無かつた?
ふーん……、そうかそうか。これが初めてだつたら……面白い
じゃん。

「……初めてなんでしょ?光鶴。……覚悟は出来る?」

笑顔で答える彼。

つか、私が覚悟する方でしようが。

「……じゃあ、どうぞ」

もつ、どつちが攻めるんだか。彼は、一先ず私の唇にキスを落とした。

あれつ?

なんか、上手い？

長い長い、愛の時間は終わり、私はぐつたり状態で彼に抱きしめられていた。

「……はあ、……あ……」

「……可愛かったよ、唯月」

彼はそう言ってまた、私の唇にキスした。もう、私の脳内は破滅状態……。

意外に上手かつた事に啞然としながら、私は彼の耳元で呟いた。

「……大好きだから浮氣したらぶつ殺すから

今日も明日も明後日も、素直じゃない私なのでした。

Sは素直じゃないのS。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2059d/>

Sは素直じゃないのS

2010年10月22日12時24分発行